

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.220

2023年3月22日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

ポテトチップスを食べることとオランウータンが 社会科教育部会 減ることが関係しているのはなぜだろう。 授業研究会

社会科教育部会は、宝塚市において小学6年生の「世界のなかの日本とわたしたち 2 国際連合と日本の役割」の単元で授業研究会をおこないました。

社会科教育部会では、主権者教育をどのようにおこなっていくのかということについて議論を重ねてきました。様々な県内のとりのくみを学びながら、社会科教育部会でも何か提案することはないか考えてきました。そこで、提案された今回の授業の内容は次の三つになります。

- ①社会科の授業を通して、子どもたち自身が世界でおこっている諸課題の原因を知り、解決策を考えること。
- ②子どもたちが学んだことを生かして、どのような製品を購入するかを価値判断・意志決定すること。
- ③その意志決定によっておこなわれた行動が、企業への投票になることを知ること。

今回の学習では、世界に起きている諸問題が自分たちの生活と関係していることについて学ぶために、ボルネオ島の熱帯雨林破壊と子どもたちの好きなスナック菓子が関係していることが提示されました。子どもたちは「なぜ」と感じ、様々な予想を立てました。そして、個人で立てた予想を「ポテトチップスやスナック菓子の成分表」の資料から読み取ったことや地図帳のボルネオ島に示されている情報をもとに、仮説に高めていきました。次に立てた仮説を検証するために、「ボルネオ島の森林（熱帯雨林）とオランウータンの分布の関係」、「ボルネオ島のキナバタンガン川周辺の昔（1984年）と現在」、「アブラヤシからできるパーム油とは」、「私たちのくらしとパーム油のつながり」といった資料を読み取っていきました。個人で資料を読み取った後に、ペアでどんなことを読み取ったかを話し合い、全体交流をおこないました。まとめの段階では、資料からわかったことのどの部分がまとめに必要かについて考えさせ、子ども自身に黒板の大事な言葉や文章に線を引かせました。また、資料からわかったことをどうつなげればいいのかと問い、黒板の線を引いたところを結んだり、丸で囲ったりさせてどの子もまとめることができるようにしていました。そして、「なぜ、ポテトチップスを食べるとオランウータンが減るのだろう」についてワークシートにまとめました。

しかし、「ポテトチップスを揚げる時に使うパーム油を採るために熱帯雨林を破壊しアブラヤシ農園にした。だからポテトチップスを食べることが、オランウータンが減ることに関係している」ことを学ぶだけでは、熱帯雨林の破壊の解決策を考えることになりません。なぜなら、今、植物油の需要が高く、パーム油の生産をやめれば、パーム油よりも単位面積当たりの収穫量が低い他の植物油を生産しなければならないことになるからです。そのため、単位面積あたりの収穫量の低い食物をつくるとなると今の何倍もの農地が必要になり、今より環境破壊がすすむことが考えられます。そこで、次の時間には、「パーム油を生産するのをやめても、環境破壊が解決しないのはなぜだろう」という学習課題を立て、学習します。この学習を通して、パーム油を使った製品を買わないのではなく、どのように生産されたパーム油を買うといいのかということを考えることができる子どもをはぐくむことをねらいとしています。

授業後の研究協議では、指導案に示されている「授業仮説」は、適切なのかということを話し合いました。その中で、協力研究所員から、授業仮説には、研究の成果、これまでの先輩方の授業での知見や授業者の経験といった根拠が示されなければならないとの助言がありました。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」⇒「各部会研究授業 指導案等」に掲載しています。ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください。) 兵教組HP 組合員専用ページ⇒

